

『野津原(のつはる)方言集』の研究成果報告

野津原地域の問題点、問題解決のひとつの方法としての『野津原方言集』の電子化とSNS発信

報告者 佐竹由次、太田月菜

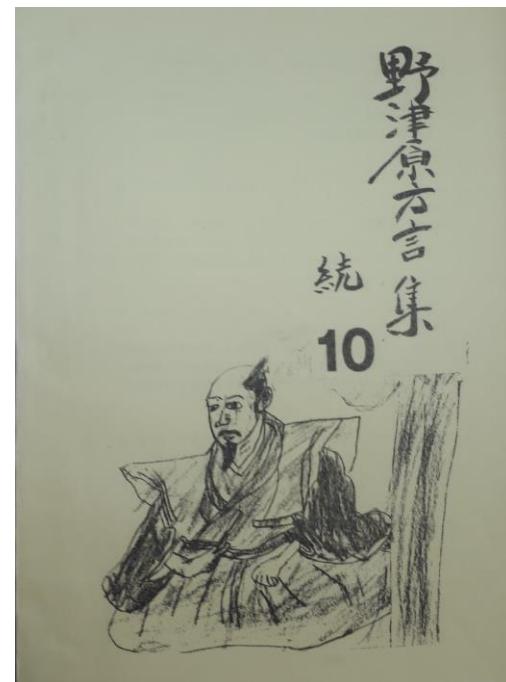
野津原地域の問題点

- ・ 過疎化・高齢化が進んでいる
- ・ 現在は市町村合併で大分市になっているので、過疎が目立たない
- ・ 若者の流出が続き、方言・祭りなど文化が継承されにくくなっている
- ・ 方言が減るだけでなく、方言が伝えている文化も減る

方言=その土地特有のもの→多様性・文化の豊かさ

➡ 『野津原方言集』の存在や大分方言をもっとアピールするべきなのでは？

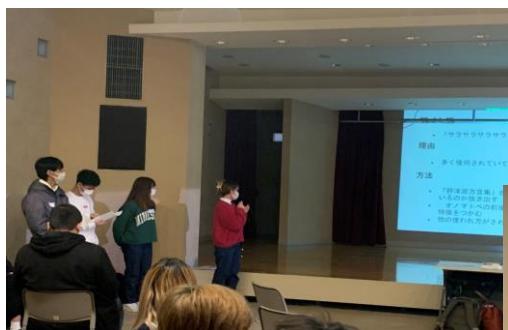
1. 『野津原方言集』の電子化(PDF化・OCR原稿の整形・修正)
2. 『野津原方言集』とその共通語訳を音声入して、Youtube発信



野津原方言集(全36巻)1998~2021年
1冊約100ページ 野津原方言調査会編著

『野津原方言集』共通語化(大分方言の特徴を学ぶ)

報告者 友松希帆、深瀬るか



ウロヨコイ	潤い憩い・雨休み
ケックシャ	結構
いんげ	いいえ
うっとどー	私たち

夕立雨

「ウロヨコイにせにや」「そうじゃなーケックシャ ユウ降ること」 久しぶり夕立雨に 野稻も稲も喜んじよる。「いいうろいじゃなー」「田が干よったけど これじ生き返るでなえ」「まあーかけなー茶を汲むわな」「いいで忙しいに」「いんげいいんで 今済んだところじゃき」「ゆうクルクル動くなー うっとどーもうよだきー」「ウットー若えきなあ」「そうじゃなー」二人は顔見合わせち大声じ笑うた 雨はよう降る。

同じ言葉でも前後の文で意味が変わってくるので、文脈から推測するのが難しかったです。また、昔の話のため文から状況を読み取れず、ネットで検索しても意味が出てこないものも多くありました。

調査会のみなさまに直接意味を聞いて、とても勉強になりました。



<下記URLからYoutubeをご覧になれます>

「のつはるのことば」 : <https://www.youtube.com/watch?v=OtliaqeBskA>

「のつはるのことば2」 : <https://www.youtube.com/watch?v=O-JJSPAn4xQ>

別府大学文学部国際言語・文化学科

『野津原(のつはる)方言集』の研究成果報告

「のつはるのことば 2」の作成

報告者 生野大和、衛藤悠希

夕立雨

「ウロイヨコイに せにゃ」
「そうじゃなー ケックシャ ユウ降ること」
久しぶりん夕立雨に 野稲も稲も 喜んじよる。
「いい うろいじゃなー」
「田が干ったけんど これじ 生き返るでなえ」

夕立雨 共通語訳

「雨休みにしなければ」「そうだなあ、結構よく降ること」久しぶりの夕立雨に野稲も稲も喜んでいる。「いい潤いだなあ」「田が干上がっていたけれど、これで生き返るだろうねえ」「まあ座りなさいな、お茶を淹れるね」「いいよ忙しいのに」「いいえいいよ、今終わったところだから」

方言コラム ウロヨコイ



- ・ウロヨコイとは、ウロイ(潤い)+ヨコイ(休み)という意味で干天続きの後、久しぶりの雨を祝って農作業を休むことである。
- ・そもそも潤い(うるい)はただの雨やしめりを表す以外にも、中国・四国地方あたりでは久しぶりに降る雨や慈雨のことを特別に潤いと呼んだりする。
- ・臼杵の農家の高齢者に聞いたところ、ウロヨコイの日は夜に皆でお酒を飲み、お神酒をあげたりして田畑を潤す雨に感謝したそうだ。
- ・また、そのように休みを設けることできつい農作業の疲れを癒したという。<古谷>

- ・『野津原方言集』から、Youtube発信に適した話を選ぶ。(後編の「ホオゲンこどもんせかい」から4話)
- ・野津原方言調査会の方に、スライド上映に合わせて読み上げていただき、パワーポイントの「画面録画」を使って録画する。
- ・「言語文化特論Ⅱ」の受講生の共通語訳を同様に録画する。
- ・録画(mp4ファイル)をつなぎ合わせ、BGMを付ける。



動画制作についての感想:初めはこんな素人の編集でも大丈夫かなと思って、引き受けて良かったのかなと思ったのですが、編集していったらなかなか楽しくてあっという間に終わらせてしまいました!

野津原方言調査会と別府大学学生との交流会ゲーム

当日の様子

報告者 古田珠衣璃、古谷茅、高橋里菜

交流会ゲーム with 野津原方言調査会

私たちは調査会の方々と「ジェスチャーゲーム」「外来語禁止ゲーム」をしました。当日は皆楽しそうにゲームに参加しており、調査会の方々からも「楽しかった」とのお声をいただき、とても嬉しかったです。この機会を経て、調査会の方々と交流を深めることができました。←



野津原方言の文末に多用される言葉

Aグループ: 綾 香水子、橋口 泰知、見玉 未来、
鎌谷 泰斗、渡邊 ひかり、張 詩豪

3. 調べた結果①

- ▶ ~ごたる。
- ▶ 意味: ~のようだ、である。
- ▶ 例文: “宇曾に出ようか荒木に行こか四辻峠の思案顔八七瀬のせせらぎ小鮎がスイスイはいはいまい” 出会い橋を潜った水が軽やかな音響かせち川底まじ見ゆるごたる。(続編18)
- ▶ 15夜御月さんもそりゅうこす念じち子どもん楽しい声がうれしかったに違いねえごたる。(続編21)
- ▶ 使われた回数: (続編18~29) 978回

発表の概要 私たちの班は、野津原方言集に出てくる文末の言葉に注目し、「ごつ」「ごたる」「さるる」の3つについて研究しました。その結果、「ごつ」「ごたる」については「~のようだ」という意味で非常にたくさん使われていることが分かりました。特に「ごつ」は九州全体で使われている方言でした。「さるる」については、古典での受身の「される」という意味で使われることが分かりました。

調査会の方からいただいたコメント ごつ、ごたる、は今もよく使われている方言であるということを知って頂きました。私たちは初めて聞く方言だった為、大分県の中でも使われる方言の差は大きいと感じます。

調べた結果②

- ▶ ~ごつ。
- ▶ 意味: ~のように。
- ▶ 助動詞の如(ごと)から派生して「ごつ」になった。
- ▶ 大分、宮崎、鹿児島、熊本県などで使われることが多い。例: しなもんが山んごつある。(大分県) 是がごつ作る(熊本県) ※参考図書 「日本方言大辞典」並木考 1989年3月 株式会社小学館
- ▶ 例文: 熱すぎると砂糖が飛び出し流れ出る事もあるきな気をつけよえ。ペベゴサンゴツ(着物を汚さないように)。(続編29)
- ▶ やんがちイッシカ仲ようなっち時に会うごつなつたそうな。(続編18)
- ▶ 使われた回数: (続編18~29) 538回

調べた結果③

- ▶ ~さるる。
- ▶ 意味: ~される。※古典文法の助動詞で「自発」を意味する。
- ▶ 例文: 今考えちみるとそげな機会にもうナッチョッタそげな想いも回想さるる。(続編23)
- ▶ かなり古い木像じ詳しい事あわからんけど地域が古い時代かるあるんを考え合わすと移動した時かヒョイトスリヤこん地区じ祀ったんか憶測もさるる。(続編18)
- ▶ 使われた回数: (続編18~29) 83回



ゲームを行った時の様子 みんなが真剣になってやっていたため、反応や叙述力が試され、楽しくできた。商品をもらえなかったのは残念ですが、ゲームを通してみんなとの仲が深まったので良かった。

オノマトペについて

Bグループ 宮田蒼太、武島倫咲、峯崎将吾
村田茉於、城百花、渡部毅琉

サラサラサラサラ ホイホイホイ

- 意味...サラサラサラサラ→さらさらと流れる様子
ホイホイホイ→進んでいる様子

- 用例

この川べりにゃ鉦水も湧き出ち一頃は沸かし湯があっち入る人も多かった。“広戸川久保積み荷ができりゃ主の後追い出しちみたいハ七瀬のせせらぎ **サラサラサラサラホイホイホイ** せせらぎが何思うか小石をよけながら流れち行く。白ユリの水面に影映す川の流れをいづくにゆくのやら。

《野津原方言集18 7項》



- 18～29の中で38回使用されていた
- ほとんどこのフレーズの前に「七瀬」ということばが置かれていた
- 他にも「ハイハイハイ」「スイスイ」といったフレーズもあった
- 歌詞として使用されている部分もあった

→アオよいさめよ宿場はそこじゃ

あれが街道の石だたみハ七瀬のせせらぎ

サラサラサラサラホイホイホイ

→肥後か府内か一の瀬渡りゃ

お国訛りが懐かしやハ七瀬のせせらぎ

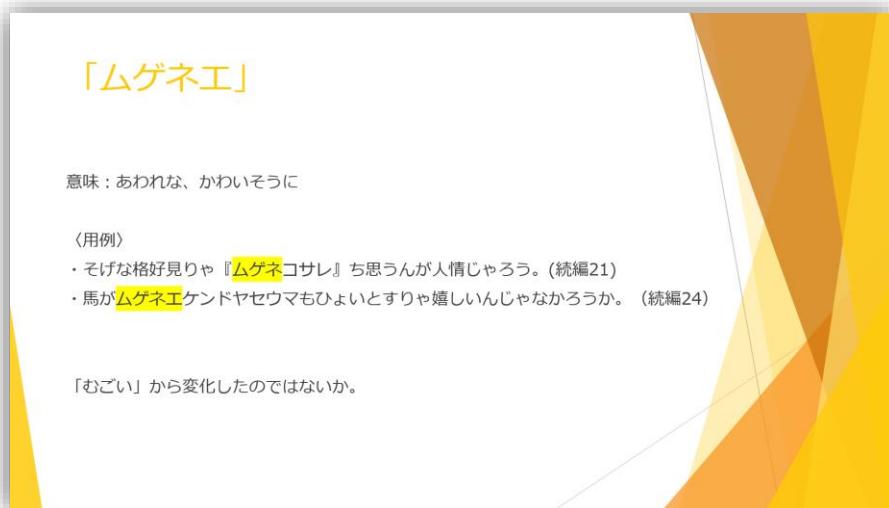
小鮎が **スイスイホイホイホイ**

感想、まとめ

当日は野津原方言調査会の方と交えて2つのゲームを行いました。1つ目はジェスチャーゲーム。出題者が声を出さず、身振り手振りの動作だけでお題を表現して解答者がそれを見てお題が何かを当てると言うゲームです。野津原方言調査会の方はゴルフというお題を引き、スイングをする動作を見せて、見事お題を当てさせるファインプレーをし、私たちのグループは一位を獲得しました。野津原方言調査会の方はとても満足そうに喜んでいました。2つ目は、カタカナ言葉を使わずにお題を表現するといったゲームをしました。こちらは1回目と違い、困惑した様子でなかなかスムーズにお題を表現することができず、結局途中でゲームが終了してしまい、私たちのグループは最下位となってしまいました。最後は悔しい結果となってしまいましたが、野津原方言調査会の方と交流する貴重な経験ができ、とても楽しかったです。

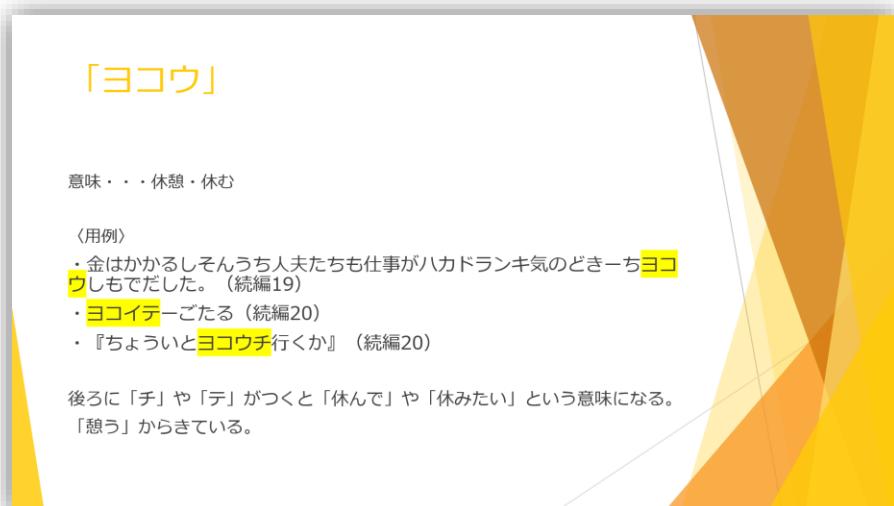
野津原の方言について～「ヨコウ」「テエゲ」「メンドシイ」「ムゲネエ」～

Cグループ: 東條 光優 富高 明日香 盧 葦 秋田 瑞葵 谷口 天志郎 鄭 淇薰



Cグループは野津原方言の中でも「ヨコウ」「テエゲ」「メンドシイ」「ムゲネエ」の4つの方言に注目した。現代の野津原方言や他県の方言と比較したり、特徴とつかんだり、そこから当時のコミュニケーションを考えた。方言として聞き馴染みのない言葉が多かったが、意味やもととなった言葉を辿っていくと、よく聞く言葉が多くあった。また、他県の方言についても知ることができ、方言全体に対する興味がさらに強まった。

今回の学修を通して、普段触れることの無かった野津原の方言について調べ、歴史や言葉の移り変わりについて知ることができた。発表の中で、「むごい」から「ムゲネエ」に変わったのではないかと発表したが、言葉だけではなく意味も変わっていたのかなどより詳しく調べていれば良かったなど課題も見つかった。野津原方言調査会会長の小野さんにも「一緒に勉強をしているようで嬉しい」とおっしゃって頂き、とてもうれしく思った。



ゲームはとても面白かったです。外国人として、カタカナの単語は少し苦手ですが、新しい単語を覚えることができ嬉しかったです。このゲームは普段友達とあまりやらないので、新鮮に感じました。最初はゲームのルールもよくわからないし、とても緊張していて頭の中は真っ白でした。しかし皆ゲームをやる時に楽しかったので、緊張感も段々なくなりました。



感動詞・オノマトペの研究～ホイホイホイ・ムドムド・トット～

Dグループ: 松野レイジ、金崎紘志、陳宇、中島鈴乃、三浦二彌賀、力武春和



話し合いでは、オノマトペの意味を調べることに苦慮し、スライドの作成に苦勞した。検索がとても難しかったのと、スライドの仕様に苦しめられた。

Dグループは、トット、ホイホイ、ムドムドの三つのオノマトペに注目し、意味や用法などを調べ考察した。また、方言としての使われ方以外にも、標準語での使われ方も調べ比較した。

初めは全く意味がわからなかった言葉も調べていくうちに他の方言との関連性や使い方が見えてきて理解を深めることができた。



ホイホイホイ

1. 何かが前に進んでいる感じを表す表現。
例) 七瀬のせせらぎサラサラサラ ホイホイ
ホイ
例) 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ
2. MUGENキャラクターのマスコットパンダ、ホイホイ。→ホイホイ(MUGEN)



発表当日は、野津原方言調査会の方にトットの使い方などについてコメントを頂き、自分たちで考察した用法と少し違うということがわかった。その後に行われたゲームでは、みんなで楽しみ、一位を取ることもできた。

今回の調べ学習を通して、方言同士に関係性があることなど方言の奥深さを学ぶことができた。また、現地の方々から直接話を聞くことは考察の幅が広がるという点でも非常に重要であるということが分かった。

『野津原(のつはる)方言集』の研究成果報告

民謡の歌詞研究～「七瀬音頭」より～

Eグループ: 井上朱里 尾崎未采 後藤隼人 谷洋平 藤木敬子 渡邊真綾

3. 七瀬音頭

北の野野台南の四辻
諏訪の石仏夢さめてソレ
揃うた揃うたよしあわせづくり
野津原よいとこ七瀬の里は
老いも若きもソレ生きがい



<https://oitameisho.hatenablog.com/entry/2022/01/28/021238>

四辻・・・道が縦横十文字に交差しているところ
諏訪の石仏・・・諏訪地区の石仏



<https://www.visit-oita.jp/spots/detail/5314>

『野津原方言集』にある「七瀬音頭」という民謡(民歌)の歌詞を調べる。歌詞の意味から野津原の文化や方言の理解を深める。

4. 特徴

- 自然と人々のつながり
- 景色の良さ
- 七瀬の特産物(主に野菜)

が歌詞の意味としてはこめられていた。

七瀬音頭に限った話になるが野津原(七瀬)の良い所を誇らしく思っているのが伝わる歌詞

また、「揃うた揃うた」や「ソレ」という同じ言葉が多くつかわれていた。

「揃うた」には野津原(七瀬)がどれほど良い所かを言える条件が出揃ったと言いたいのではないか。

発表当日

発表当日は、野津原の方と一緒にゲームもし楽しく距離を縮められた。

わかったこと・課題

四辻は四つの角ではなく実際の地名であり、今も使われている。本町という場所があり、参勤交代にも使われていた。



別府大学文学部国際言語・文化学科

感動詞・オノマトペの研究～「リャ」「チュン」の意味・用法～

Fグループ: エ藤諒太、藤原壮馬、車恩知、江口楓、山本江莉、志手七海



「チュン」の例文が野津原方言集に少なく、少ない情報の中から現代語訳や意味を推測することが難しく、苦勞しました。

4. 結論

①「リャ」の意味・用法

・驚いたときによく使われていることがわかった。

現代) おやまあ、あらまあ、おや、あら

②「ちゅん」の意味・用法

・日本国大辞典より

「ゆきなやむ、ゆきずまる」ということがわかった。

・「チュンチュン」は、鳥の鳴き声

・「ちゅんと涙する」は、この意味であっているのか。。?

意味: ①行けそうもなくて困る。
進むことに困難を感じる。
②物事がうまくはかどらない。

私たちは、「チュン」を「少し泣く様子」を表しているのではないかと結論づけましたが、野津原方言集の作者の方にお話をうかがったところ「チュン」は昔の人が泣くのを胡麻化するために鼻をすする動作を表しているということが分かった。



『野津原(のつはる)方言集』の研究成果報告

野津原方言調査会と別府大学学生との交流会 in Notsuharu

2022年12月17日(土)

於:野津原市民センター多目的ホール

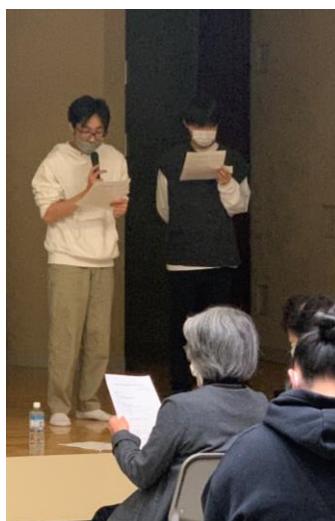


当日は、小雨の降る寒い日でしたが、研究成果発表時に調査会の方から歓迎・励ましのコメントや新しい情報をいただくことができました。

学生たちは、方言音声入り動画を視聴したことで、方言音声の魅力を感じたり、ゲームで野津原方言調査会の方々との距離が近くなって地域の課題と向き合う意義を実感したりしたようです。

野津原方言調査会の中心人物である佐藤源治さんにはご都合によりご参加いただけず、大変残念でした。ぜひ、次の機会にお会いしたいです。

- ・開会宣言
- ・野津原方言調査会 会長御挨拶(小野寿祐氏)
- ・前半①「言語文化論Ⅱ」の研究調査発表
 - Aグループ「野津原方言の文末に多用される言葉」
 - Bグループ「オノマトペについて」
 - Cグループ「野津原の方言について～『ヨコウ』『テエゲ』『メンドシイ』『ムゲネエ』～」
 - Dグループ「感動詞・オノマトペの研究～ホイホイホイ・ムドムド・トット～」
 - Eグループ「民謡の歌詞研究」
 - Fグループ「感動詞・オノマトペの研究～『リャ』『チュン』の意味・用法～」
- ・前半② 野津原方言調査会×「言語文化特論Ⅱ」コラボレーション作品
 - 音声入り語り動画(大分方言・共通語訳・熊本県人吉方言訳)「のつはるのことば 2」上映
- ・後半
交流ゲーム
- ・学生挨拶
- ・野津原方言調査会の方からのメッセージ(那須政子氏・赤星ヨシミ氏)
- ・集合写真撮影
- ・閉会宣言



この取り組みは「おおいた地域連携プラットフォーム」の支援を受けています。
2023.01.16制作 連絡先:別府大学文学部国際言語・文化学科 教授 松田 美香

matsumi@nm.beppu-u.ac.jp

QRコードからHP記事へ進み、『野津原方言集』本文、Youtube動画がご覧になれます。